

念花

2025年2月28日
第25号
西南中生徒指導部通信
文責 松浦

飛鳥はななぬ

いよいよ来週、卒業式を迎えます。【卒業証書授与式】の名の通り、一人一人が受け取る卒業証書授与が式のメインであり、一番に行われます。卒業生一人一人が主役になり、注目が集まるというのは、人生の中であまりなく、強いて言えば、卒業式や自分の結婚式ぐらいかな…という人も少なくありません。私はそうです。

出席者(保護者、来賓、地域の方々、職員)も、卒業証書授与の時には、その一人だけに注目し、祝福しています。

保護者の方も、自分の子どもをビデオやカメラで一生懸命追いかけて撮影するものです。

誰でも自然とそうなるように、それが我が子を想う「親心」なのであります。

その保護者の方々は、「我が子のどういう姿を卒業式でみたいのだろうか?」

そう考えれば、三年生一人一人は、自分を支えてくれた自分を祝福してくれる人、全ての人に、自分の「晴れ姿」を見せなくてはなりません。「晴れ姿」とは、

「二二まで成長しました、見てください、という気持ち」「二二まで成長しました、ありがとうございましたという気持ち」という想いを、支えてくれた人々に伝えることです。

たとえ、自分が面倒くさい、恥ずかしい、という気持ちがあっても、「一生懸命頑張つて、思い出に残る卒業式にしたい!」という前向きな気持ちを持つ同級生の気持ちを大事にしていきたいものです。

結婚式では、親に花束を渡したり、手紙を読んだり、と感謝の気持ちを言葉に出して伝える場面があります。しか

し、限られた時間のある卒業式では、二百名近い生徒一人一人が、自分の保護者に感謝の気持ちを述べる時間はありません。

では、卒業式で「二二まで育ててくれてありがとう。見てください」という感謝の気持ちをどうやって伝えることができるのか。

私はそれを伝える方法が「三つ」あると思います。それは、

「返事」「歌」「堂々とした態度」

「返事」…特に最初の氏名点呼の返事は、担任の先生との、最後の一对一での「心のキャッチボール」です。「恩返し」の想いを込めた、その大きく、凜とした返事は、それだけで、その心の成長に感動し、自ずと涙が出てきます。

「歌」を一生懸命歌う。本校では「君が代」と校歌の二曲です。校歌の三番は、特に、巣立ちに関わるものが歌っています。だからこそ、一生懸命、心を込めて歌うことは、周りの人に想いが伝わり、感動が生まれるのです。

「堂々とした(凜とした)態度」…姿勢を正し続けることは「我慢」がいることです。動きを揃えるためには、気持ちを揃えなければなりません。それをやり続けることは、卒業式を「大切にしたいと思う心」がないとできませんし、我慢する心こそ、大人の証(あかし)だと思います。だからこそ、「起立」の動きが一つ揃うだけで、周りの方にみんなの意気込みや想いが伝わるのです。

卒業式は、義務教育の修了を意味する大事な式です。これが最後の卒業式になる人もいるかもしれません。

全員で行う「最後」の卒業式は、最後だからこそ大事な大事な式になります。だからこそ、態度や身だしなみもきちんとしたもので参加しなければなりません。

在校生は参加できないので、見せることはできませんが、これまで西南中のリーダーとして頑張ってきた三年生の、西南中での「最後の責務」なのです。